

# 令和4年度 学校評価報告

草加市立青柳小学校  
(令和5年2月24日作成)

<b>1 学校教育目標</b> あ…明るく元気な子 お…思いやりのある子 や…やりとげる子 ぎ…きたえる子	
<b>2 重点目標・努力目標</b> ・感染症対策の徹底、安全・安心な教育活動 ・所属感・自己肯定感・自己有用感の育成 ・不登校・いじめの未然防止 ・学びの質の向上 ・生徒指導の充実 ・三かけ運動の推進	<b>3 前年度の成果と課題</b> 成果 ○学校評価では、「中学校接続を意識した教科担任制の実施」において肯定的な回答の割合が増加した。 課題 ●読書に親しむ機会を計画し、読書活動の充実を図る。

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○教職員の声を生かした分掌組織を編制し、学校経営方針に基づいた教育活動を推進することができた。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○計画的に研修を実施し、教員一人ひとりの授業力向上へとつながった。 ●中学校区内での研修内容の共有と推進
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○保健・安全計画をもとに、課題に対して適切に対応することができた。大きな事故、怪我は発生していない。 ●むし歯治療率の向上
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○倫理確立委員会や職員会議等を通して教育公務員としての自覚と誇りを共有し、事故0を継続することができた。 ○安全点検で不具合があった箇所について、早急に修繕できた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校だより等で児童の様子を家庭・地域に発信することができた。 ●家庭・地域との連携をさらに深め、地域と共にある学校づくりを進めていく。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○中学校教員による乗り入れ授業(算数)を通して、教科の系統性を意識した指導を行うことができた。 ●幼保との連携・交流の方法を工夫していく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	B	<p>○学校評価をもとに教育課程を編成し、教育活動の充実を図ることができた。</p> <p>●自己肯定感・自己有用感の育成に関する取組を進めていく。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	B	<p>○見通しと振り返りのある授業を行い、基礎学力の定着を図ることができた。</p> <p>●基礎・基本の確実な定着に向け、引き続き指導法の工夫・改善を図る。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<p>○道徳科の指導法について研修を行い、授業改善につなげることができた。</p> <p>●評価についてさらに研修を進めていく必要がある。</p>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>各教科、道徳教育との関連</li> <li>中学校との連携</li> </ul>	B	<p>○専科教員・ALTとの連携を図り、計画的に授業を行うことができた。</p> <p>●教材活用及び指導方法について、他の教員間においても研修を深める必要がある。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>児童会活動</li> </ul>	B	<p>○感染症への配慮を行いつつ、児童同士の交流を深めることができた。</p> <p>●学級活動の計画的な実施を通して、学級経営の充実を図る必要がある。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<p>○ICTを活用し、感染症への配慮をしながら学習を進めることができた。</p> <p>●学校の特色を生かした内容の充実を図る。</p>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、児童理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	B	<p>○いじめ防止対策委員会や生徒指導委員会を通して課題を全教職員で共有し、教員間の連携を図りながら指導に当たることができた。</p> <p>●積極的な生徒指導を充実していく。</p>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>中学校との連携</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>家庭、地域との連携強化</li> </ul>	B	<p>○キャリアパスポートを年間計画に設定し計画的に進めることができた。</p> <p>●中学校との連携を深める必要がある。</p>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	B	<p>○個別の支援計画をもとに個に応じた指導を行うことができた。</p> <p>●教員の日常的な指導の質を向上させる必要がある。</p>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	B	<p>○図書館司書による図書館の整備により読書活動の意識が向上した。</p> <p>●児童・保護者の読書に対する関心を高めていく取組が必要である。</p>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>ICT機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	A	<p>○タブレットの活用を推進し、オンラインでの学びを充実させることができた。</p> <p>●教員間のリテラシー格差を解消するための研修が必要である。</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の策定</li> <li>各教科との関連</li> <li>人権感覚の育成</li> <li>校内研修の充実</li> </ul>	B	<p>○計画に沿って、各学年で人権に関する授業を実施することができた。</p> <p>●校内研修を充実させ、人権感覚育成プログラム等を生かした授業の充実を図る。</p>	

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	幼保小中を一貫した教育の推進	・中学校教員の乗り入れ授業 ・幼稚園、保育園との交流学習 ・3校合同研修	B	○乗り入れ授業を通して、該当学級の児童は中学校生活について見通しをもつことができ、不安軽減につながった。 ●幼保との交流を充実できるよう計画を見直す。
	読書活動・家庭学習の充実	・児童貸し出し冊数平均50冊	A	○朝読書、読み聞かせ、親子読書、学校図書館を活用した授業を通して、児童が読書に親しむ機会を提供することができた。 ●蔵書点検を行い、良質な読書環境を整える。
	特別支援教育の推進	・関係機関との連携、活用 ・さわやか相談日の活用	B	○巡回相談やスクールカウンセラーとの連携を図り、児童の実態に応じた支援を行ってきた。 ●児童の特性を生かすため特別支援教育の視点を生かした指導力の向上を図る。

**5 総合評価** (学校関係者評価を含む)

○全校で一部教科担任制を実施しており、学年・学級の枠を超えて、多くの教員による指導を継続することができた。

○学校関係者からは、学力・学習状況調査の結果を全教員で分析して授業改善に生かしている点や様々な学校課題が混在する中で教育活動を円滑に推進していることについて称賛をいただいた。

○小中の連携として、乗り入れ授業を行ったことで中学校への意識向上を図ることができた。

○感染症拡大防止に向けて、保護者の協力を得ながら児童の健康観察等を徹底し、安全・安心な教育活動を推進することができた。

○学校評価では「中学校接続を意識した教科担任制の実施」において肯定的な回答の割合が増加した。今後も取組を継続し、質の向上を図っていく。

**6 次年度の改善策**

●読書活動について、効果のあった取組は継続するとともに、読書に親しむ機会を一層充実させていく。また、読書機会が少ない児童も興味を持てるような読書環境を整えていく。

●いじめ、不登校の未然防止のため、生徒指導、道徳教育、特別活動、人権教育等、あらゆる機会をとらえて、児童一人ひとりが安全・安心な学校生活を送れるようにしていく。